

編集室

「信じられない一言」ランキング

ある日、車でラジオをきいていた、「ぜったい信じられない一言ランキング」ってのをやっていました。6位「怒らないから言って」、5位「また今度ね」、4位「全米スマッシュヒット」、3位 女子が紹介する「かわいい娘」、2位「無料」、そして1位は「一生のお願い」ということでした。

聞いていて、結構ウケてたのですが、ふと、少し視点をずらして医療界バージョンを考えてみました。そうするとこれらの「一言」、わが内科診療、ひいてはわが国の医療の実態と欺瞞をあますことなく映し出していることに気がつきました。

順位もそのまま、ひとつひとつみていきます。

6位。「怒らないから言って」。これは、薬のアドヒアランス問題です。このあとに「お薬、余っているでしょ?」と続くわけですが、ただ、最近私が思うのは、薬を飲んでないことに対し、このような上から目線に対応するのはよくない、ということです。確かに、薬は必ず余っているでしょう。しかしこれは当たり前なのです。例えば私が誰かに血圧の薬を処方された場合ちゃんと毎日飲むだろうか?と自問してみます。絶対無理です(100%はムリ、ということね。立場上)。生活習慣病の診療においては、「薬を残さず飲むのはけっこう大変だ」くらいの認識を患者さんと共有していないと逆に実際のアドヒアランスもあがらないと思っています。

5位。「また今度ね」。この言葉を聞くと、痛恨の思いが沸き起こります。慢性疾患で長年、月1回通院している患者さんが、あるときフツとこなくなる場合があります。そのような人って、診察がマンネリ化して必要な検査を「また今度ね」と先送っているのです。そういう人に限って重大な病気が発生する。急に姿を消したとき、その方は他の医院で私が見落としした病気を治療されておられる。そのような経験を何度か繰り返してしまっております。

4位。「全米スマッシュヒット」。これは米国でなされている医療が世界最先端だといふ錯覚して飛びついてしまう、わが国の医療全体を覆う問題、いやむしろ自分の問題を浮き彫りにする警句ととらえましょう。そもそも「スマッシュヒット」なる言葉は映画や音楽などでなにも褒めることがない場合に使う表現らしく、よく考えるとなにも意味がない。とはいえサイエンスやいわゆるエビデンスは米国に遅れをとる部分は多くそれは認めざるを得ないと思います。アメリカというブランドでなく、内容を吟味できるリテラシーを持ちたいものです。

3位。女子が紹介する「可愛い娘」が可愛かった試しがない!これは「医者で紹介先を患者さんが喜んでいないかもしれない」、の件ですね。これは、いろいろなケースや事情もあることでしょうし、何とも言いがたいか。ちなみによく紹介状に「御侍史」と書きますが、最大の敬称「●●先生サマサマ」くらいの意味かとおもっていたが、「先生に侍っている方へ」という意味らしいですね。「先生に直接申すのは恐れ多いので侍史の方、開封して先生に伝えてください」という意味。「おんじし」と読むらしい。

2位。「無料」。これはもちろん医療費の問題です。1錠8万円の肝炎治療薬や何千万円もする免疫抑制剤を健康保険や公費負担で行った場合、患者負担はいわばタダみたいなもの。そんな事例が身近なものになってきた今日、そんな医療制度を今までのやり方で支えられるはずない!いったいどうしたらいいんでしょうねえ。タダほど怖いものはない。

1位。「一生のお願い」。なぜこれが1位でした。自分としてはあまり使わない言葉です。ただ、時に私のような者でも患者さんから「どうしても治りたい」といった「一生のお願い」を託されていると感じることがあります。その願いは本物に思えます。そのような願いは真摯に受け止めていきたいと思っています。

(小園 亮次)

広島県医師会速報 2017年(平成29年)2月25日

●発行所／一般社団法人 広島県医師会 〒732-0057 広島市東区二葉の里三丁目2番3号 TEL 082-568-1511 FAX 082-568-2112
広島県医師会HP <http://www.hiroshima.med.or.jp/> E-mail : kouhou@hiroshima.med.or.jp

●編集者／広島県医師会長 平 松 恵 一
(広報委員)山中 祐介、小園 亮次、高路 修、隅田 昌之、谷 充理、津田 敏孝、中尾 三和子、
平尾 健、正岡 良之、吉田 良順、桑原 正雄、小笠原 英敬、水野 正晴、志田原 泰夫

●印刷所／レタープレス株式会社 〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809番地の5 TEL 082-844-7500 FAX 082-844-7800